とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都荒川区南千住８－２－１
園名	荒川区立南千住第二幼稚園

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

本園の地域及び園庭は自然が充実し、植栽も豊かである。一方で園児の立ち入らない場所や使用していない箇所がある。工夫を図り、より一層自然への興味関心を高めたい。

２．活動スケジュール

１０月２５日　東白鬚公園に行き、秋の自然物を採取する
１０月２８日　採取してきたものを集め、観察する
１１月１８日　採取してきたものを使ってリースを作る

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】
・遠足で拾った秋の自然物（クヌギ・シラカシ・スダジイ・マテバシイ・ピラカンサ・枝など）
・ボンド

【環境の構成】
・円型テーブルの上に設置し、素材がどこからも見えやすく届きやすくする。
・素材を十分に設置し、子供が選ぶことに抵抗なく思い思いに使えるようにする。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

○年中組「リースをつくろう」
・遠足で採取してきた自然物を使ってリースをつくる

○教師が材料をテーブルに出す
・3 名ほどが「汚い汚れがあると思うから」と言って、ドングリを洗い出す。
「これでたぶん乾くでしょう」と雑巾で拭く。入れ物も拭く。
・「どんぐりいっぱいあつまっている」と幼児がテーブルに並べられた素材を覗く。
・教師「これつけたいな、とかすきなどんぐりのかたち（選んでね）」
・たくさん洗ったどんぐりをもんだり転がしたりする。
・マテバシイのような形と違う、ラグビーボール型のどんぐりを取り上げ、「ラグビーボールだ」と形の違いを楽しむ。

○リースをつくる
・教師が、「リースのつけたいところにボンドをこれくらいつけてみて」と伝える。
・どんぐりの帽子の中にピラカンサの実を入れるが、落ちてしまう。「（ボンド）もうちょっと入れるか」と量を調整したり、落ち葉を、落ちないようにリースの間に入れたりしていく。リースにボンドを付けず、ボンドを付けてからドングリを乗せるとうまくいく。「作戦通り」と満足する。
・帽子付きドングリを見つけ、「当たり」とつける。
・クヌギの帽子に複数のドングリをつけていく。「親子」
・「（大きな）まつぼっくり、つけられるかな？」と試すが、スペースがないのでつけられず、落ち葉に変える。
・「できない。ちっちゃいのだったらはまるかも。」となかなかうまくつけられない子がいた。その前で、自分自身に「がんばれ。落ち着け。」と言いながら、ボンドを実に付けてからリースに付けていた。その様子を見て、ドングリの帽子にたくさんボンドを入れてみるが、リースにつく側にボンドがついていないのでつかない。

＜活動中の子供の姿･声、子供同士や保育者との関わり〉

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・素材を十分に使える量にしたり、見える位置に置いたりしたことで、自然物の形やつけてみたいものをじっくりと選んで付けていた。幼児同士が見合えて、つぶやきが聞こえる距離であることで、友達の工夫やいいアイディアを取り入れようとしていた。
・「できない」とつぶやく幼児に、直接教える様子はなかった。自分も同じように難しさに向かっていたので、自分に「落ち着け」言い聞かせる様子があった。
・ボンドのつけ方について、教師が伝えたところうまくいかず、自分自身で付け方を工夫していた。つける場所、ボンドの量も調整していた。ボンドの量を調整しやすいボンドを用意したことで、幼児が試しやすかったようだった。